

# 校長室 13

校長室だより（令和7年5月）

## 「綾なす」光景

\* 綾なす・・・美しい模様を作る

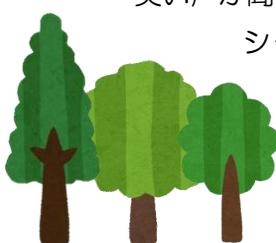


5月に入り、一気に緑が濃くなりました。

晴れた日には気持ちのいい風が廊下を渡る中、授業を覗きがてら校内を歩くと、教室からの笑い声やグループワークの元気な声、映像教材の音声が風に乗ってくるのに包まれます。熱弁をふるう先生の説明が面白くて、思わず廊下で足を止めてしまうことも。教室を覗いて目が合った生徒が挨拶してくれるのも、嬉しいことです。

今年度軌道に乗せたディサービスセンターの方への施設開放日 一通称「扉を開ける日」一 も、回を重ねています。ディサービスセンターとの間に風を通すことについて、H 先生がよく次の言葉を私に語ってくれます。「おじいちゃんおばあちゃんが校舎を自由に歩いてくれて、もし迷ったり困ったりしても、うちの子どもたちが自然に助けるようになればいい」。素敵ですね。

そんなある日、利用者の方、職員の方と一緒におしゃべりしながら歩いていると、窓の外から明るい笑い声が聞こえてきました。思わず覗いた先に、晴れた午後の日差しの中を漂うたくさんのシャボン玉が。午後は下校になる3年生の生徒たちが、輪になって5月の光を楽しんでいました。高齢の方々と一緒に手を振ると一斉に挨拶を返してくれましたが、私はこの美しい映像を思いだすたびに、幸せな気持ちになります。



「シャボン玉ですね」と笑顔の皆さんを書道の教室や体育館の団体行動の授業にご案内し、生徒たちの頑張りを見ていただきました。

こうしてよい季節を、みなさんと一緒に満喫しています。

## 「五月の病」とは

今年の大型連休は、「大型」と呼ぶには少々ささやかな感じがしましたが、どんな風に過ごしましたか？いつも以上にしっかり部活動の練習が入ったり、試合が続く休日になったりした生徒・先生もいたと思います。お疲れさまでした！

私はいつも通り、日頃できなかったあれもこれもを詰め込んで・・・気づくと終わってしまっていました。少しは出かけて好きなことができたので、良しとします。

さて、正式な病名でないながら、GW が終わったこの時期によく耳にする「五月病」。先日、朝のニュースでも大きく話題にしていました。他の月に「病」は付かないので、特別な時期なのでしょう。ここまで生徒も職員も、新年度の大きな変化を過ごしてきたのですから、心身に何かしらの負荷は掛かっているでしょう。この時期、理由のわからない不調を感じることがあっても、不思議ではありません。

自分だけではなかなか解決できないことがあります。この人に話してもいいかな、と思える人に、ゆ

ゆっくり息を吐くように、話をしてみてください。学校には本当にたくさんの人が、同じ場所で同じ時間をお過ごしています。たくさん的人がいるぶん、あなたの話に耳を傾けてくれる人も、必ずいます。  
綾西には先生方だけではなく、皆さんのお話に耳を傾けるためだけに、そこにいてくれる人もいますよ。

## 校外学習が終わりました



5月13日（火）は校外学習でした。3学年は東京方面自主行動、2学年は高尾山登山、1学年は相模湖方面での野外炊さんです。私は天気予報を気にする毎日でしたが、当日は素晴らしい天気に恵まれました。

以下、翌日学校に戻った先生方に、面白エピソードはないかとねだって報告してもらった内容です。

3学年：M先生から。浅草は外国からの方の姿が本当に多く、浅草寺でおみくじを引いた海外の方から、「ここには一体何が書かれているのか」と尋ねられた生徒がいたそうです。おみくじには何と「凶」とあったとのこと。そばにいた先生を巻き込んで、一生懸命説明したそうですが、どう答えるかに悩みますよね。上野公園では韓國の方から「一緒に動画を撮りましょう」と声を掛けられることでコミュニケーションに発展し、お友達になったと喜んでいた生徒もいたそうです。素敵な国際交流ができました。

2学年：全9クラスを、先にケーブルカーで高尾山山頂に向かう組と、トリックアート美術館に入る組とに分け、校外学習が始まりました。新任のJ先生によると、「美術館なんてすぐに見終わって5分で出てくるから！」と宣言して入っていった生徒が、たっぷり時間をかけて楽しんだ後、キラキラの笑顔で出てきたとのこと。話してくれるJ先生の笑顔もキラキラしていました。



暑すぎないちょうどいい陽気の中、山の景色をたっぷり楽しみながら、思い切り親睦を深めてくれたようです。

1学年：相模湖そばの施設を舞台に、各班で協力してカレーのメニューをこしらえます。S先生に聞いたところ、生徒は飯盒でお米を炊いた経験が少ないせいか、炊きあがったご飯にシンのある班が多くったとのこと。S先生は人数の少ない班に入って飯盒担当をしていたそうで、その班だけはふくらおいしいご飯に。生徒たちが次々にご飯をもらいに来て、飯盒は見事、空っぽになりました。S先生、飯盒名人として株を上げましたね。



帰りのバスでもクラスで和やかに過ごし、入学して最初の大きな行事を、先生方と生徒たちの力を合わせていい思い出にしてもらいました。

これからもずっと、ふと思い出す風景のひとつになることでしょう。

また、お知らせしますね。

